

安芸地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

(平成27年度 第3四半期)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| 項目名及び事業概要、主な事業主体 | これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆> | インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|--------|--------|-----|-----|------|--------|--------|--------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|----|-----|-----|-----|-------|------|--------|--------|--------|--------|-----|-------|-------|-------|--------|--|
| <p>1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進</p> <p>《室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村》</p> <p>主産地である安芸市において、ナス産地としてのまとまりの再構築に取り組む。また、消費地から要望の高い品種である「土佐鷹」の栽培拡大を全域に推進していく。</p> <p>【JA土佐あき】</p> | <p>○部会の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究会ナス部会への参加者増による活動の活性化(安芸集出荷場) 参加者数:H21年度(126人)、22年度(174人)、23年度(228人)、24年度(325人)、25年度(393人)、26年度(370人) 土佐あき新施設園芸システム勉強会の発足(H25.7月) 増収効果が確認された環境制御技術を普及するため、『環境制御技術導入加速化事業』等を利用することで、CO2施用装置等の導入が進んだ(9ha、H27.3月現在)。 <p>○土佐鷹の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培候補農家のリストアップによる28園芸年度推進目標面積(40ha)の設定と意識統一ができた。 H26園芸年度土佐鷹販売実績:出荷量3,195t、販売額8.1億円(JA出荷ナスの19%) <p>○安芸集出荷場のまとまりづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 系統率の向上(安芸市 H21年度:52% →H24年度:60%) 新規加入者数(H22~27園芸年度)合計28名 ナス出荷量の増加(単位t) <table border="1" data-bbox="566 734 874 801"> <thead> <tr> <th>園芸</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JA全体</td> <td>17,169</td> <td>17,803</td> <td>16,236</td> <td>17,648</td> </tr> <tr> <td>安芸場</td> <td>3,385</td> <td>3,971</td> <td>3,841</td> <td>4,378</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="566 813 874 880"> <thead> <tr> <th>園芸</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>(前年比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JA全体</td> <td>16,597</td> <td>18,193</td> <td>18,437</td> <td>(109%)</td> </tr> <tr> <td>安芸場</td> <td>4,402</td> <td>4,888</td> <td>5,290</td> <td>(111%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○JA土佐あき消費拡大連絡協議会が発足(H25.10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページが開設された(H27.4月)。 <p>◆土佐鷹の面積拡大(H27園芸年度23.8ha)</p> | 園芸 | H20 | H21 | H22 | H23 | JA全体 | 17,169 | 17,803 | 16,236 | 17,648 | 安芸場 | 3,385 | 3,971 | 3,841 | 4,378 | 園芸 | H24 | H25 | H26 | (前年比) | JA全体 | 16,597 | 18,193 | 18,437 | (109%) | 安芸場 | 4,402 | 4,888 | 5,290 | (111%) | <p>①系統出荷率向上への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> まとまりづくりチーム会、打合せ会(活動結果等の協議 5回) 個人出荷者も参加する地区会(7回) 個人出荷者も含む個別巡回(4回) 営農相談日(6回) 各地区活動への支援(31回) 実証試験成績の周知(7回) 土佐あき地域園芸戦略推進会議(8/13) 実証ほの設置(14ヶ所) 品目別現地検討会(12/22) <p>②土佐鷹の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐鷹普及推進協議会作業部会(次作栽培面積把握と対策、4月以降現地巡回) 土佐鷹栽培ごよみ改訂版協議(2回) 土佐鷹栽培者全戸巡回 <p>③販売促進、出前授業等の企画や内容協議</p> <ul style="list-style-type: none"> JA土佐あき消費拡大連絡協議会の各支部総会及び全体総会(芸西支部、安芸支部、中芸支部、芸東支部、協議会総会) 東部博(JA土佐あきまるごとサミット)、出前授業、収穫体験等の開催支援(10回) |
| 園芸 | H20 | H21 | H22 | H23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JA全体 | 17,169 | 17,803 | 16,236 | 17,648 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安芸場 | 3,385 | 3,971 | 3,841 | 4,378 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 園芸 | H24 | H25 | H26 | (前年比) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JA全体 | 16,597 | 18,193 | 18,437 | (109%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安芸場 | 4,402 | 4,888 | 5,290 | (111%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>2 ユズを中心とした中山間振興</p> <p>《室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組む。ユズ販売額の向上を図る。</p> <p>【JA土佐あき、JA馬路村】</p> | <p>(JA土佐あき)</p> <p>○新植、改植の推進に取り組み(H21~26)、県選抜系統を活用した母樹園が設置された。</p> <p>○果汁の販売対策として計画的に施設整備を進め(北川村:H21:搾汁施設、H24:果汁殺菌設備)、JA内に販売対策チームも設立した(H24)。</p> <p>○EU向けに青果輸出に取り組み始めた(H24~H26:毎年3t)。</p> <p>○北川村ゆず振興協議会で意向調査をもとに作業受託組織設立と農地流動化を検討することとなり、H26から園地調査を実施している。</p> <p>○JA土佐あきの全搾汁工場で県版HACCPを取得した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆隔年結果及び品質低下対策 ◆母樹園を活用した優良系統の普及 ◆ユズ銀行(作業受託組織H23末解散)に代わる新たな労働補完体制の検討及び園地流動化に向けた体制整備 <p>(JA馬路村)</p> <p>○ゆず茶(H21)及び化粧品(H22)の加工施設を導入した。</p> <p>○アルミ缶対応ドリンク充填ラインを導入した(H26)。</p> <p>○加工品の販売実績が徐々にではあるが増加している。</p> <p>○販売拡大に向けて新商品が開発された(H24:シャーベット2種、ポン酢1種、H25:ポン酢1種、化粧品3品、H26:ポン酢等3品、化粧品2品)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討 | <p>①新植・改植の推進(JA土佐あき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培講習、改植事業等の勉強会(24回) 母樹プロジェクト会等での優良系統母樹の活用方法の検討(4回) <p>②将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 北川村ゆず振興協議会等での検討(6回)(北川村) 園地調査の実施支援(3回)(北川村) 連絡会等での情報共有(5回)(馬路村) <p>③ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工原料の品質ワンランクアップ(JA土佐あき)(勉強会等の開催:24回) 販路拡大に向けた活動の継続 EU向け青果ユズ輸出の実施 県版HACCP取得の進捗確認(JA馬路村) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| <p align="center">アウトプット(結果) <small>＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞</small></p> | <p align="center">アウトカム(成果) <small>＜アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと＞</small></p> | <p align="center">指標・目標</p> |
|--|--|--|
| <p>①系統出荷率向上への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人出荷者へも情報提供ができた。 ・新規栽培者に重点支援を行った(14人/1~8回/月)。 ・営農相談による情報提供ができた(延べ304人)。 ・各集出荷場で栽培技術について情報提供ができた(延べ442人)。 ・園芸研究会成績発表会及び各部会で実証試験成績の周知ができた(延べ236人)。 ・営農アドバイザー制度、GAPの推進、土佐鷹を含むナス産地振興の協議の場づくりなどの産地振興方策が決定された。 ・環境制御技術について関心と技術向上が図れた(39人)。 <p>②土佐鷹の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28園芸年度栽培面積18.62ha(前年比△5.15ha)となった。 ・土佐鷹栽培ごよみ改訂版を作成した。 ・個別巡回指導で初期の栽培管理等について農家の理解を得ることができた(88人)。 ・厳寒期の栽培管理について農家の理解を得ることができた(50人) <p>③販売促進、出前授業等の企画や内容協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支部及び協議会全体の年間事業計画が確認された。 ・東部博(JA土佐あきまるごとサミット 2,500人)、出前授業、収穫体験等を実施し、環境保全型農業の取組の周知やナスの販売促進ができた(収穫体験 480人+幼稚園・小学生 298人)。 | | <p>【指標】</p> <p>安芸市の系統出荷率(H21:52%) 土佐鷹の作付面積(H23:29ha)</p> <p>【目標(H27)】</p> <p>安芸市の系統出荷率 60% 土佐鷹の作付面積 80ha</p> |
| <p>①新植・改植の推進(JA土佐あき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実の品質アップに向け、関係機関が連携して指導を実施しており、生産者も適期防除等に取り組んでいる。 ・関係機関が協力してピッチング調査及び穂木の採取を実施し、優良系統の苗木を産地内の母樹から確保する仕組みをつくることできた。 <p>②将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内全域のほ場台帳の公開範囲や、活用方法(新規就農者向けの村単事業で、農地の紹介をする際に使用するなど)について検討が進んでいる(北川村)。 ・村内の中部地区及び南部の一部で調査が完了した(北川村)。 ・仕組みづくりの方向性を決定するために、村内のユズ農家を対象にアンケートを実施することとなった。(馬路村) <p>③ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工原料の品質ワンランクアップに向けて、関係機関が連携して指導を実施しており、生産者も適期防除等に取り組んでいる(JA土佐あき)。 ・果汁販売の一元化に取り組むこととなった(JA土佐あき)。 ・EU向けに4tの青果ユズを輸出した。 ・搾汁施設で県版HACCPを取得した(JA馬路村)。 | | <p>【指標】</p> <p>(JA土佐あき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青果出荷受入量(H22:297t H23:370t) ・加工仕向け量(H22:4,250t) ・加工用果皮出来高量 安芸(H23:631t) 北川(H23:31t) <p>(北川村、馬路村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業受託等の新たな組織作り <p>(JA馬路村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品販売額 ユズ茶(H21:80百万円) 化粧品(H21:17百万円) ポン酢他ユズ加工品(H21:2,000百万円) <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青果出荷受入量 400t ・加工仕向け量 4,670t ・加工用果皮の出来高量 安芸 1,000t 北川 80t ・作業受託等の新たな組織作り 北川村1組織 馬路村1組織 ・加工品販売額 ユズ茶 160百万円 化粧品 52百万円 ポン酢他ユズ加工品 2,070百万円 |

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| <p>項目名及び事業概要、主な事業主体</p> | <p>これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆></p> | <p>インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと></p> |
|--|--|--|
| <p>3 ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《東洋町》</p> <p>東洋町の特産品であるポンカンを活用した商品開発と既存商品を含めての販路開拓を行う。</p> <p>【甲浦の果樹仲間】</p> | <p>○ポンカンを活用した商品開発(ポンカンドリンク(ビン、アルミパウチ(無糖))、ポンカンドレッシング)</p> <p>○H26販売数3,584本(ドリンク2,520本、ドレッシング1,064本)</p> <p>○平成24年度には県外(関西)で5社のセールス活動を行い、新規取引が成立(大阪の業務用酒販 1社)するなど、年間数件の販路を拡大</p> <p>◆販売戦略の策定</p> <p>◆販路拡大</p> <p>◆知名度の向上</p> <p>◆脆弱な営業体制</p> <p>◆商品の生産体制</p> <p>◆新商品開発</p> | <p>・ポンカンジュース販売用ディスペンサー購入(東洋町地域活性化プラン事業補助金活用)</p> <p>・イベントへの出店(3回)</p> <p>・関西の飲食店9店舗に営業活動(10/1~2)</p> |
| <p>4 「安田(あんだ)の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発</p> <p>《安田町》</p> <p>マンゴー大福「安田の白い夢」を中心に、大都市圏のバイヤーに対し、ロット数を確保した具体的な提案を行っていく。</p> <p>また、町内で生産される農産物を使用した新たな商品を企画開発し、県外を中心に販路開拓を行って、雇用の確保と生産者の所得の向上を図る。</p> <p>【安田町、生産者】</p> | <p>○「安田(あんだ)と夢ファクトリー『キララ』」プレオープン(H24.4月)</p> <p>指定管理者:デトワール スタッフ9名雇用(うち7名地元採用)</p> <p>○正式オープン(H24.6月)</p> <p>マンゴー大福、地元産牛乳のシュークリーム、文旦やブルーベリーのタルトほか20種類の洋菓子を製造・販売</p> <p>○まるごと高知テストマーケティング(H24.9月~年末まで)</p> <p>○柚子味噌、トマトを使用した試作品を作製</p> <p>○高知龍馬空港の直営売店での販売開始(H24.2月~)</p> <p>○ニッポン全国物産おやつランキング5位入賞(H25.11月)</p> <p>○年間製造実績34,000個(H26年度)</p> <p>◆導入した製造機械での本格生産に向けた大口の販路開拓</p> <p>◆原材料の安定確保に向けた仕組みづくり</p> | <p>・県外や東部博関連イベント等での販売促進活動を実施(13回)</p> |
| <p>5 白下糖の生産の拡大と観光への活用</p> <p>《芸西村》</p> <p>伝統ある芸西村の白下糖づくりを伝承し、白下糖の生産拡大と新たな加工品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化(認知度アップ)と地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【芸西村、芸西村製糖組合、生産者グループ】</p> | <p>○サトウキビ収穫量:H23年度 25t:H24年度 38t:H25年度 39t:H26年度 34t</p> <p>○先進地視察:H23年度(黒潮町:黒糖新製造ライン等):H24年度(香川県:脱葉機視察)</p> <p>○H25年度 脱葉機導入</p> <p>○伝承館改修(製糖体験スペース増築)(H26年度)</p> <p>◆製糖組合員の高齢化に伴い伝統技術の継承者(後継者)の育成</p> <p>◆白下糖を活用した新商品・加工品の開発</p> <p>◆サトウキビ作付面積の拡大</p> | <p>・関係者協議(5回)</p> <p>・芸西村地域AP協議(1回)</p> |
| <p>6 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化</p> <p>《室戸市、東洋町》</p> <p>土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図る。</p> <p>【室戸市木炭振興会、室戸市木炭生産組合(仮称)、土佐備長炭生産組合】</p> | <p>(室戸市木炭振興会)</p> <p>○産振補助金により研修窯(8t窯3基)を設置(H21・H22)。</p> <p>○新規研修生の受け入れ(H21~26:12人)(土佐備長炭生産組合)</p> <p>○産振補助金により共同利用窯(15t窯5基、12t窯2基)を設置(H21・H22・H25)。</p> <p>○原木の共同購入、製品の共同出荷体制の確立。</p> <p>○新規研修生の受け入れ(H21~26:10人)(室戸市)</p> <p>○室戸市木炭振興計画の検討(H26)</p> <p>◆2事業体(室戸市木炭振興会及び土佐備長炭生産組合)とも研修生の受け入れを行い、後継者の育成に努めているが、研修終了後に独立する際に必要な用地や資金の確保が困難。</p> <p>◆2事業体に未加入の生産者の組織化</p> <p>◆2事業体の組織力の強化</p> <p>◆原木の安定調達(原木林の確保、伐り手の確保)</p> | <p>・特用林産業新規就業者支援事業(県単)による新規研修生の募集</p> |

| アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと> | アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと> | 指標・目標 |
|---|--|--|
| ・関西で3店舗新規取引成立 | | 【指標】 商品アイテム数:2アイテム 既存商品の販売数:1,807本 (H22) 【目標(H27)】 4アイテム 5,000本 |
| ・ニッポン全国物産展おやつランキング準グランプリ受賞 | | 【指標】 売上高 (H23:施設整備) (H24:生産開始) 【目標(H27)】 100百万円 |
| ・体験メニュー参加者6名 | | 【指標】 サトウキビ収穫量 (H22:20t) 【目標(H27)】 40t |
| ・新規研修生の応募、受入(東洋町2人、室戸市3人) | | 【指標】 新規就労者確保 共同窯設置 生産量の増産 新規商品開発 原木配給施設 【目標(H27)】 新規就労者 5名 共同窯設置 6基 生産量増産 30t/年/基 新規商品開発 1商品 原木配給施設 1箇所 |

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| 項目名及び事業概要、主な事業主体 | これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果：○ 課題：◆> | インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと> |
|--|--|---|
| <p>7 木質バイオマス活用の促進</p> <p>《安芸市、芸西村》</p> <p>林地残材等を熱エネルギーとして利用していく。</p> <p>【JA土佐あき、(有)安岡重機、高知バイオマスファーム、高知東部森林組合】</p> | <p>○木質ペレット製造工場の稼働(H22.11月～、(有)安岡重機)</p> <p>○園芸用木質ペレットボイラーの設置124基(産振前H20:7基、産振後H21～H26:117基)</p> <p>◆木質ペレットボイラーの導入台数は目標を達成したが、木質エネルギーの地産地消を目指すうえでは、当該ボイラーの地域内ペレット需要量(H26:約2,600t)が冬季に集中しているため、夏場におけるペレット利用先を確保して需要の平準化を図る</p> <p>◆地域内ペレット生産量(生産能力1,000t)が不足しているため、ペレットの生産体制を増強しなければならない</p> <p>◆木質ペレット製造に必要な原木の安定調達</p> <p>◆ペレットボイラー利用に必要な燃料用木質ペレットの安定供給</p> <p>◆重油価格との比較の中で、農業者が望むペレット価格と木質ペレットの供給価格との調整</p> | <p>・原木を計量、ストックする中間土場の設置</p> |
| <p>8 林業加工品の販売の促進</p> <p>《馬路村》</p> <p>木材加工品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営安定を図る。</p> <p>【エコアスマ路村、馬路村森林組合】</p> | <p>○産業振興推進総合支援事業による新商品の開発、試作品作成(H21～22)</p> <p>○商品化(量産・販売):モナッカ新バッグ(H21)、骨壺、子供用ベッド(H22)、Kutubera(H25)</p> <p>○国内外の展示会への出展(H21～継続的に実施)</p> <p>○ホームページのリニューアルによる直販の強化(H21～継続的に実施)</p> <p>◆営業部門の活動の強化</p> <p>◆森、木、エコ、田舎のストーリー性を含めた商品紹介の継続</p> <p>◆展示会やHPでのアンケートにより収集した顧客意見の活用と商品力アップ</p> <p>◆環境先進企業(協働の森参加企業等)への社用バッグ、ギフト用品等の提案</p> <p>◆新商品の開発、商品のPR、販売戦略の見直し</p> <p>◆ヤナセセギを前面に出したブランド販売戦略</p> <p>◆木製品の出荷額及び雇用者数の現状維持</p> | <p>・プレミアム・インセンティブショー春2015への出展(エコアス)(4月)</p> |
| <p>9 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大</p> <p>《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》</p> <p>キンメダイや定置漁獲物など地域の主要魚種について鮮魚販売、加工品販売の強化を図る。</p> <p>【芸東水産業改良普及協議会、(有)タカシン水産、高知県漁協】</p> | <p>○フェアや商談会等でのPRにより高知県産キンメダイの認知度が一定向上</p> <p>○キンメダイの冷凍フィレが地域の観光メニューであるキンメ井用の材料などとして定着</p> <p>○定置網漁獲物の魚価向上に向けた新たな取組が活発化</p> <p>○遠洋マグロ漁業者による高鮮度処理ピンナガ(おとめまぐろ)の生産が定着</p> <p>○(有)タカシン水産の水産加工施設(10名を雇用)が軌道に乗り、生産量、取引先ともに順調に拡大</p> <p>◆キンメダイの効果的なPR活動の展開</p> <p>◆高鮮度等を売りにした定置漁獲物など地域の主要魚種の販路拡大</p> <p>◆買い手のニーズを踏まえた生産・販売方法の検討</p> <p>◆新たな加工商品の開発</p> | <p>・イベントでのキンメダイのPRを支援(1回)</p> <p>・キンメダイを試験的に海外(ロシア)へ出荷(3回)</p> <p>・定置網関係者で今年度の取組内容を協議(4回)</p> <p>・定置網の沖合での鮮度管理の状況を調査(37回)</p> <p>・定置網の高鮮度処理魚を飲食店へサンプル提供し、評価を取得(5回)</p> <p>・定置網における簡易加工品の試作を支援し、品質の評価を取得(4先)</p> <p>・沿岸マグロはえ縄漁業の付加価値向上策について関係者と協議(5回)</p> <p>・近海マグロはえ縄漁船が地元水揚げ(2回)</p> <p>・遠洋マグロはえ縄漁船の脂肪測定について関係者と協議(6回)</p> <p>・タカシン水産で衛生管理の現状調査を実施(1回)</p> |
| <p>10 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上</p> <p>《安芸市》</p> <p>加工処理能力の向上等によってシラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。</p> <p>【民間企業、安芸漁協、安芸おじゃ娘】</p> | <p>○シラスの来遊量が前年より多く、また、H25に建設されたシラス加工施設の効果も一定あったため、水揚げ金額はH26到達目標を上回ることで、H27目標とほぼ同金額であった(H26)</p> <p>○安芸地域が不漁であっても他地域から原魚確保することにより、シラス加工施設を年間を通じて稼働させるメドが立った(H26)</p> <p>○シラス加工施設完成(H24)</p> <p>○地元からの雇用創出(H24)</p> <p>○シラス佃煮等の商品開発(H21)</p> <p>・各種イベントでのPRや直販所での販売を通じて商品の認知度が高まってきている。</p> <p>◆現状の加工処理能力では盛漁期に値崩れを起こしやすく、既存加工業者による新たな設備投資、新たな加工業者の参入等が必要</p> <p>◆衛生管理・製造体制の強化、収益性の向上、販路拡大</p> <p>◆漁業者・漁協・シラス加工業者との協議を実施し、漁業関係者はシラス加工処理能力の向上による浜値上昇を希望している</p> | <p>・安芸水産との協議(6回)</p> <p>・安芸おじゃ娘との協議(3回)</p> <p>・漁業者との協議(2回)</p> <p>・行政関係者での情報共有(3回)</p> <p>・安芸水産が営業・企画担当を2名新規雇用</p> <p>・安芸水産への産業振興アドバイザーの派遣(商品開発:2回)</p> |

| アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと> | アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと> | 指標・目標 |
|---|--|---|
| ・原木約2,000m ³ (800t)のストックが可能になった。 | | 【指標】 ペレット生産量能力 (H23:1,000t/年) 木質資源利用ボイラー設置台数 (H23:67基) 【目標(H27)】 1,500t/年 100基 |
| ・来場者230人、商談12件 | ・成約5件 | 【指標】 木製品出荷額 (H22:233百万円) 雇用者数 (H22:59人) 【目標(H27)】 木製品出荷額 233百万円 雇用者数 59人 |
| ・高鮮度処理魚の品質について高い評価が得られた。 ・遠洋マグロはえ縄漁船が新方式での脂肪測定を開始した。 | | 【指標】 (キンメダイ)平均単価(H20～22平均: 1,146円/kg) (大敷漁獲物)水揚げ金額(H22～24平均: 13.3億円) (加工品)販売金額(H22:4,700万円) 【目標(H27)】 (キンメダイ)1,200円/kg (大敷漁獲物)15億円 (加工品)12,000万円 |
| | ・シラス水揚げ金額(H27.1～12月):213,019千円(前年比 5%増) | 【指標】 水揚げ金額 (H23.1～12:189,231千円) 【目標(H27)】 水揚げ金額 201,000千円 |

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| 項目名及び事業概要、主な事業主体 | これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆> | インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと> |
|--|---|--|
| <p>11 海洋深層水の利用拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>室戸海洋深層水アクア・ファームにおける海洋深層水給水量の拡大を図る。 東部博や室戸ジオパーク海洋深層水サイトとして、アクア・ファームの受け入れ体制を強化し、観光客等に対し海洋深層水のPRを行う。 また、海洋深層水の水産への利用について検討を行う。</p> <p>【室戸市、深層水利用企業】</p> | <p>○これまでの各種取組により、個人及び企業に対して、海洋深層水の利活用並びに周知が図れた。また、多くのアクア・ファーム入館者にも海洋深層水を知ってもらうことができた。</p> <p>○室戸ジオパークサイトの1つとして、連携した説明・PRができる体制づくりが図られた。</p> <p>○高知県、室戸市、高知大学、深層水利用企業が連携する臨床試験等の開始。</p> <p>○スジアオノリ養殖施設は、養殖技術の定着や安定した販路の確保により、収支が黒字化し大幅な経営改善が図られた。(H27から室戸市による指定管理に移行)</p> <p>◆安定した事業運営の継続 ◆深層水供給の維持・向上に対応するための設備の維持・更新 ◆深層水の優位性の早期解明</p> | <p>・スジアオノリ養殖施設の円滑な運営に向けた支援 ・県内外のイベント出展によるPR活動の実施(3回)</p> |
| <p>12 安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進</p> <p>《安芸市》</p> <p>安芸の安全・安心な地域食材を活用し、新たな加工品の開発と既存商品の磨き上げを行うことで、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図るとともに、生産者の所得の向上を目指す。</p> <p>【安芸市、生産団体・グループ、民間事業者・加工業者、安芸市観光協会、「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会、安芸「釜あげちりめん丼」楽会、安芸商工会議所女性会、JA土佐あき婦人部、入河内大根のこそう会】</p> | <p>○土佐龍馬であい博でのころごし社中開催(H22入場者113千人)</p> <p>○安芸観光情報センターの設置(H23.3月)</p> <p>○ボランティアガイドの力量アップや観光に係る人材が育成されてきた。地域食材(ナス、シラス)を活かした食の提供の動きにつながってきている(H25 新レシビ「安芸まるごと丼」(ナス、土佐ジロー、シラス活用)の開発)</p> <p>○JA土佐あき婦人部「商人塾」受講 なすまんの生産増(人材育成)、販路拡大に向けた動きにつながっている。</p> <p>○安芸商工会議所女性部による「安芸市おいしいものマップ」作成(H26)</p> <p>○安芸「釜あげちりめん丼」提供店舗17店舗(H26)</p> <p>○「安芸まるごと丼」提供店舗7店舗(H26)</p> <p>○廓中ふるさと館の施設改修(H26)</p> <p>◆地域食材を活用した加工品の開発と販売 ◆食の提供の強化</p> | <p>・安芸「釜あげちりめん丼」楽会検討会(7回) ・じゃこサミット実行委員会(7回) ・入河内大根のこそう会総会(1回) ・農業創造セミナー(メリーガーデン)(6回) ・6次産業化支援チーム会(東風グループ)(3回)</p> |
| <p>13 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進</p> <p>《奈半利町》</p> <p>地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。</p> <p>【奈半利町・奈半利なんでも市加工グループ・いちじく加工品グループ・高知県漁協加領郷支所女性部・JA土佐あき】</p> | <p>○JA土佐あきの農産加工施設(味噌加工施設)の増床及び製造機器(味噌充填機1台、自動麹発酵機1台)の追加導入により、奈半利味噌を増産する体制が整った(H26)。</p> <p>○奈半利町の農産加工施設は、エリアマネジメントの実施により、運営を担う団体及び取り扱う加工品等の大枠が決定し、基本構想が完成した。また、特産果樹を使用した新商品(コンポート、ジャム、プレミアムタルト)を開発した(H26)。</p> <p>○奈半利町の水産加工施設も、エリアマネジメントの実施により、運営を担う団体及び取り扱う加工品等の大枠が決定し、基本構想が完成した(H26)。</p> <p>◆奈半利町の農産加工施設及び水産加工施設は、H27に施設を新設するとともに厨房機器類を導入して、加工体制を強化する必要がある。</p> | <p>・農産加工施設(実施主体:町) 加工施設建設に向けた加工グループ、アドバイザー等との協議(24回実施) 地域づくり支援事業費補助金交付決定(加工販売所の整備:事業費34,388千円、補助金17,194千円)</p> <p>・水産加工施設(実施主体:町) 加工施設建設に向けた加工グループ、各関係機関やアドバイザーとの協議(35回実施) 水産加工施設視察研修(2回実施) 加工グループが食品加工推進室主催の業務用プロジェクトスタートアップセミナーに参加 業務筋へのアプローチのため、業務用プロジェクト個別相談会に参加 地域づくり支援事業費補助金交付決定(加工販売所の整備:事業費40,551千円、補助金20,000千円)</p> |
| <p>14 地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《田野町》</p> <p>田野町及び周辺地域の地域資源を活用した商品を開発し、販路を拡大していくことにより、雇用の確保と地域の経済の活性化を目指す。</p> <p>【四国部品㈱中芸事業所、(有)松崎冷菓工業、民間企業】</p> | <p>○酒粕スイーツ「蔵乃風」「蔵人の菓」等の開発、販売開始(H22~23)、塩シャーベット「塩姫」等、生姜のお菓子「爪の垢」の開発、販売開始(H24~25)</p> <p>新商品の試作・開発や、商談会・イベントへの参加等により販路開拓を進めている。</p> <p>○酒粕ドレッシング試作・改良、パッケージデザイン作成(H22~23※H24.12ダイイチ・ダルマ食品の事業廃止により、事業継承者なし)</p> <p>○天日塩アイスの一般向け商品の開発(H25)</p> <p>○JAF(日本自動車連盟)の広報誌等で町の特産品や観光等についてPR(H26)</p> <p>◆事業として成立させるための収益性の向上及び販売体制の確立 ◆地域食材の活用促進、関係者間の連携強化、商品ブランド化 ◆事業継続の見極め</p> | <p>・商談会等への参加(2回) ・地域イベントへの出店(8回)</p> |

| アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと> | アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと> | 指標・目標 |
|--|--|--|
| | | 【指標】 ・アクア・ファームの海洋深層水使用料 H22:27,000千円 【目標(27)】 35,000千円 |
| ・全国ご当地じゃこサミット来場者数延べ3万人 ・メリーガーデンのカフェで提供するメニューの完成(2品) | | |
| | | 【指標】 H25売上額 農産加工品:500万円 水産加工品:150万円 【目標】 農産加工品:750万円 水産加工品:200万円 |
| ・商談9社 | ・商談成立8社 | 【指標】 酒粕商品販売額 (H23:4,200千円) 【目標(H27)】 42,000千円 |

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| 項目名及び事業概要、主な事業主体 | これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆> | インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと> |
|--|--|---|
| <p>15 完全天日塩の生産の拡大と観光への活用</p> <p>《田野町》</p> <p>製塩ハウス施設等の整備と併せて新たな就業者の確保・育成を行うとともに、塩づくり体験を通して、完全天日塩の産業化と交流人口の拡大を図る。</p> <p>【田野町、民間事業者】</p> | <p>○製塩体験施設の整備(H24)、オープン(H25)</p> <p>県観光拠点等整備事業費補助金を活用し施設を整備したことにより、体験受入による交流人口の拡大に取り組む環境ができた。</p> <p>H26.8月～27.3月まで、台風被害により休業、H27.4月に再オープン。</p> <p>○地域おこし協力隊の導入(H25～)</p> <p>H25.4月から、産業振興、移住促進等事業とあわせて体験施設運営や塩づくりに関わる地域おこし協力隊を4名採用。H26からは2名増員となり、体験製塩施設の企画・運営等に関わる人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>◆完全天日塩の産業化に向けた方針の検討</p> <p>◆新規就業者の確保に向けた人材育成</p> <p>◆新規就業者の独立に向けた環境整備</p> <p>◆体験施設の運営体制の確立と集客のための整備</p> <p>◆集客できる体験メニューの充実と田野町内での周遊促進</p> | <p>・昨年8月以降休止していた製塩体験施設(町施設)での見学・体験受け入れ再開(4月～)</p> <p>・製塩体験施設の業務に従事する地域おこし協力隊の1名増員(4月～)</p> <p>・製塩体験施設での体験プログラム検討、試行、実施</p> <p>・製塩体験施設の説明の英語表記</p> |
| <p>16 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化</p> <p>《室戸市》</p> <p>地域食材を加えたジェラートの製造や地域産品の加工を行う施設等を整備して、新商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、生産者の所得向上を図る。</p> <p>【室戸市】</p> | <p>○平成20年度に楽市の増改築を、平成22年度には駐車場の拡張を行い、平成24年は約25万7千人(キラメッセ全体で約32万8千人)の来場者があり、売上は2億5千万円(全体約4億円超え)を超えた。</p> <p>○県外の店舗・アンテナショップ等への野菜等の販売により、さらに販路が広がった。</p> <p>○基本構想・基本計画を策定(H25)、道の駅キラメッセ室戸を一体的に機能強化していく方向性が定まった。</p> <p>○産業振興推進総合支援事業費補助金の採択を受け、トイレの改修を行った。また、加工場の整備及び駐車場の造成工事に着工した。</p> <p>◆加工場を活用した地域食材の消費拡大に向けた取り組み</p> | <p>・加工場オープン(8/22)</p> |
| <p>17 海の駅を拠点とした地域振興</p> <p>《東洋町》</p> <p>高知県の東の玄関口である東洋町に、観光拠点施設や地元特産品の販売・加工施設、飲食施設等の機能を付加した「海の駅」を整備することにより地域の活性化を図る。</p> <p>【東洋町】</p> | <p>○情報交換会の実施(H21～23)</p> <p>○順調に売り上げを伸ばしており、平成22年度には「海の駅」の施設を増築。</p> <p>○H24.7月 火災により焼失。産振補助金の活用により再建し、H26.1月再開。</p> <p>◆運営体制の強化</p> <p>◆地域産品を活用した加工品の確保</p> <p>◆観光拠点機能の付加</p> | <p>・東部地域の観光施設との連携によるツアー客の誘致</p> <p>・各種イベントの開催(4回)</p> |
| <p>18 道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等</p> <p>《田野町》</p> <p>地域の特産品や観光情報の発信機能を強化し、田野駅屋の集客力を最大限に有効活用する。併せて地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。さらに、それらに資する施設整備等を行う。</p> <p>【田野町、道の駅指定管理者、加工施設指定管理者、生産者組織】</p> | <p>○加工品7品目開発(H21)、3品目試作(H22)</p> <p>○田野駅屋拡張(74㎡増)(H23.3月)</p> <p>情報発信コーナーが整備されたことで、中芸地域以东の観光情報発信の拠点としての期待が高まっている。</p> <p>○イベントの受入れや参加を通じて、情報発信や田野町のPRIに取組を進めている。</p> <p>◆情報発信機能の更なる強化</p> <p>◆地場産品を活用した魅力ある特産品(加工品)の開発と販売体制の強化</p> <p>◆加工品の開発に関しては、10品目の開発がされてきたが、販売が継続されているものは少ない。</p> | <p>・中芸観光協議会と連携したGW、SW期間の臨時観光案内の実施</p> <p>・イベント開催・地域イベントへの出店(11回)</p> |
| <p>19 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化</p> <p>《芸西村》</p> <p>地場産品直販所「かっぱ市」のリニューアルオープンに伴い、花卉類・鮮魚類の販売を拡充させ、他の直販所と差別化することで売上の増加を図るとともに、地域経済の活性化を図る。</p> <p>村内で生産される農産物等(ピーマン、黒砂糖等)を使用した新たな商品を企画開発し、村内産品の付加価値を高める。</p> <p>【芸西村、(有)かっぱ市、生産者グループ】</p> | <p>○H23.10月リニューアルオープン(産振補助金の投入)</p> <p>○かっぱ市職員が農業創造セミナー等の研修会に参加し、具体的な活動計画を作成するなど、サービス向上・売上増加に向けた意識の高揚が図られた。(H23)</p> <p>○産振アドバイザーの助言による試作商品の販売(H23)</p> <p>○産振アドバイザーの指導・助言による既存加工品の磨き上げ等(H25)</p> <p>○H24.10月～店内調理場での弁当等加工品販売開始</p> <p>○新商品「黒糖みつ」と黒糖みつを使用したかき氷の販売開始(H26)</p> <p>○店内にイートインコーナー設置(H26)</p> <p>◆花卉類出展量の確保、新商品の開発及び新商品の原材料確保(サトウキビ等)</p> <p>◆商品集荷システムの構築</p> <p>◆テイクアウト商品の充実</p> | <p>・企画会開催(2回)</p> <p>・体験メニューに係る関係者協議(1回)</p> <p>・地域AP関係者協議(4回)</p> <p>・体験メニューの実施</p> |

| アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと> | アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと> | 指標・目標 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・体験受入回数(88回) ・体験プログラムのメニュー化 ・製塩体験施設、東部博中芸パビリオン(モネの庭)で実施 ・旅行パンフレットへの体験プログラムの掲載 | <ul style="list-style-type: none"> ・見学・体験への参加者数(568人) | <p>【指標】 体験受入回数(H23: 50回) 受入人数(H23: 体験330人、見学458人計788人) 生産量(H23: 2t)</p> <p>【目標(H27)】 体験受入回数: 100回 受入人数(体験960人、見学1,040人計2,000人) 生産量: 6t</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・楽市来客者数(H27.8~11月): 86,814人 (前年同期: 73,506人) | | <p>【指標】 直販所「楽市」来場者 (H23: 244,968人)</p> <p>【目標(H27)】 258,000人</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数(H27.4~12月): 128,038人 (対前年度11%増) | <ul style="list-style-type: none"> ・売上(H27.4~12月): 116,501千円 (対前年度15%増) | <p>【指標】 来場者数 (H22: 153,446人)</p> <p>【目標(H27)】 来場者数 180,000人</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・臨時観光案内所への来客数 (GW1,058人、SW750人) | | |
| | | <p>【指標】 売上額 (H22 87,000千円)</p> <p>【目標(H27)】 106,000千円</p> |

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| 項目名及び事業概要、主な事業主体 | これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆> | インプット(投入) <講じた手立で数量的に見える形で示すこと> |
|--|--|--|
| <p>20 安芸地域の観光振興の推進 ～東部地域博覧会の開催～</p> <p>《安芸地域全域》</p> <p>安芸地域における市町村が連携して地域博覧会を開催することを契機に、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて、地域博覧会により蓄積された広域観光のノウハウを活かすために、広域観光のプロモーション機能や地域コーディネート機能を持つ組織をつくることにより、地域博覧会後における広域観光の推進体制を整備する。</p> <p>【安芸広域市町村圏事務組合、市町村、観光協会等、地域団体、民間事業者、高知県東部地域博覧会推進協議会】</p> | <p>○観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21～22)・増刷7,500部(H26)</p> <p>○DVDの作成 500枚(H21)</p> <p>○ランドオペレーター1名雇用(H22.6月～)</p> <p>素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりに上げている</p> <p>○エージェントセールス(H25.1月 中四国、H25.2月 関西)</p> <p>○東部博単独のエージェントセールス(東京、大阪、福岡、名古屋)(H26.10月)</p> <p>○高知県東部地域博覧会基本計画の策定(H25)・実施設計の策定(H26.7月)</p> <p>○教育旅行誘致用の広域パンフレット作成(H25)</p> <p>○東部博公認の体験プログラムの造成・磨き上げ(15プログラム)</p> <p>○東部博公式ガイドブック春夏号を作成・配布</p> <p>◆広域的な連携強化</p> <p>◆戦略的な商品造成</p> <p>◆教育旅行の推進に向けた民泊の拡大及び体験メニューの充実と人材育成</p> <p>◆東部博終了後の安芸地域の観光推進体制の整備</p> <p>◆広域観光組織の立上げ</p> | <p>・東部地域博覧会オープニングイベント開催、東部博スタート(4/29～12/23)</p> <p>・東部博企画運営部会 2回</p> <p>・東部博広報誘客部会 1回</p> <p>・東部博幹事会 1回</p> <p>・東部博推進協議会総会 1回</p> <p>・東部博スペシャルイベント「安芸室戸パシフィックライド2015」開催(12/6)(386人参加)</p> <p>・東部博クローズングイベント「ここから大会議」「なかじめ祭」開催(12/23)(合計:1,200人参加)</p> <p>・民泊の受入世帯拡大のための各世帯個別訪問実施(室戸市、東洋町等)</p> <p>・東部博公式ガイドブック秋冬号を作成・配布(8/20～)</p> <p>・東部博PRキャラバン(徳島・香川・岡山・愛媛8/25～27)</p> <p>・東部博現地研修実施(3回)</p> <p>・広域観光推進体制整備に向けた打ち合わせ、協議</p> |
| <p>21 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興</p> <p>《室戸市》</p> <p>世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や商品開発に取り組み交流人口の拡大を図っていく。</p> <p>【室戸市、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市観光協会】</p> | <p>○H23.9月に世界ジオパーク認証を受けた。</p> <p>○看板や遊歩道、駐車場などの環境整備、ガイドやジオパークマスターの養成研修(H21～H23)の実施等により、室戸ジオサイトにおける受入体制の整備が図れた。</p> <p>○ジオガイド養成講座の実施により、ガイド登録者が増加した(H25.4.1時点48人)。</p> <p>○モニターツアーの実施(H24)により、ツアー参加者のニーズを把握できた。</p> <p>○日本ジオパーク全国大会の開催(H24)により約2,200人が本大会に参加し、それに伴う宿泊・食事利用等による経済効果があった。また、地域住民との連携が図られ、室戸ジオパークの理解促進につながった。</p> <p>○拠点施設整備の基本計画ワークショップの開催(H24)により、地域住民が積極的に関わった計画の策定ができた。</p> <p>○拠点施設建築主体工事の基本設計、実施設計を完了した(H25)。</p> <p>○拠点施設外構工事及び展示整備の基本設計を完了した(H25)。</p> <p>○室戸世界ジオパークセンターの整備により、受入体制が強化された(H26)。</p> <p>◆世界ジオパーク再認定審査</p> | <p>・室戸世界ジオパークセンターオープン(4/29)</p> <p>・ジオガイド養成講座応用編の開催2回</p> <p>・産振アドバイザー制度の活用(接客マナーの指導:1回)</p> <p>・観光拠点等整備事業費補助金(行当黒耳海岸サイト整備工事)の交付決定</p> <p>総事業費:11,903千円(補助金額:5,951千円)</p> |
| <p>22 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>室戸岬漁港(新港)の「海の駅とろむ」を核として、マリトレジャーによる交流人口の拡大を図る。室戸ドルフィンセンターの待合施設やシャワー施設を備えた施設建設により、利用者満足度の向上、物販スペース等の拡大による事業売り上げの向上を図る。また、陸上プール設置及びイルカ飼育頭数を増やすことによる体験者の増加を図る。</p> <p>【NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト、室戸市】</p> | <p>○広報の強化、施設の充実等により、高額プログラムであるドルフィンスイムの参加者が大幅に増加、それに伴い、事業収入が増加し運営の安定の土台が築けた。</p> <p>また、平成24年度に新たな施設及び陸上プールを整備したことにより、より安心・安全にふれあい体験が利用できるようになり、物販・休憩スペースも確保され、来場者の満足度の向上に向けた準備が整った。</p> <p>さらに、平成25年度には陸上プールに接続した補助プール(直径5m、水深1.5m)を整備し幼児や高齢者も安心して利用できる体験プログラムの開発が可能となった。</p> <p>◆ジオパーク等地域の観光素材を組み合わせた情報発信</p> <p>◆より多くの集客を図るための広報・営業の検討</p> <p>◆周辺施設等との連携による集客</p> | <p>・東部博に関連するテレビ・雑誌等の取材対応や、フェイスブックによる情報発信</p> <p>・イオンモール高知にてFM高知主催の公開録音イベントに出席し、くじ引きや優待券付きパンフレットの配布。</p> <p>・ホームページの多言語化(英語、中国語、韓国語)(7月～)</p> <p>・WiFi整備完了</p> <p>・各種イベントの開催</p> <p>・冬季限定プログラム「ときめきドルフィン」提供開始(12/20～)</p> |
| <p>23 岩崎弥太郎生家を核とした観光振興</p> <p>《安芸市》</p> <p>岩崎弥太郎生家エリアや土居廓中エリアを観光拠点として磨き上げを実施し、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る。</p> <p>【安芸市、安芸市観光協会、「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会、安芸市観光ボランティアガイドの会、民間事業者】</p> | <p>○土佐龍馬であい博での、ころろざし社中開催(H22入場者、113千人、目標100千人)</p> <p>○ボランティアガイドの育成(33名)(H26末時点)</p> <p>○H23.3月、安芸観光情報センターの設置</p> <p>○岩崎弥太郎銅像移転(岩崎弥太郎生家駐車場付近へ)(H26)</p> <p>○廊中ふるさと館の施設改修(H26)</p> <p>◆岩崎弥太郎を活かした取組の強化</p> <p>◆新規ボランティアガイドの獲得</p> | <p>・「高い甲子園」実行委員会(5回)</p> <p>・安芸市ボランティアガイドの会総会(1回)</p> <p>・「はばたけ弥太郎」推進委員会総会(1回)</p> <p>・安芸市観光ガイド養成講座(4回)</p> <p>・岩崎弥太郎源流の地フォーラム(1回)</p> |

| アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと> | アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと> | 指標・目標 |
|---|---|---|
| ・東部地域博覧会主要施設の利用者数が前年比増加(H27.4～11月) (モネの庭:24%増、安芸市立歴史民俗資料館:101%増、安芸観光情報センター:35%増) | ・東部博を契機に各施設で実施したイベント等が誘客促進に繋がる事が認識され、今後の誘客に対する新たな意識の醸成につながった。 | 【指標】 圏内主要施設訪問者数 (H23～25の平均値:2,180,000人) 圏内宿泊者数 (H23～25の平均値:133,000人) 【目標(H27)】 圏内主要施設訪問者数 2,556,000人 圏内宿泊者数 150,000人 |
| ・室戸世界ジオパークセンター入館者数(12月末現在):83,041人(年間目標の約1.2倍) | ・室戸世界ジオパークセンターを核とし、観光客増加等地域への波及効果が見られた。 ・ジオパークガイド利用者数(12月末現在):9,128人(前年同期の約1.4倍) | 【指標】 ジオパークガイド登録者数(H22:20人) ジオパーク関係施設来訪者(H22:53,473人)※ドルフィンセンターを含む 【目標(H27)】 登録者数40人 来訪者数70,000人 |
| ・来場者数(H27.4～12月):26,170人 | ・体験収入(H27.4～12月):30,281千円 | 【指標】 室戸ドルフィンセンター来場者数 H22:22,181人 【目標(H27)】 室戸ドルフィンセンター来場者数 (H27.27,000人) |
| ・商い甲子園参加者数:155人(14校19チーム) ・観光ガイド養成講座参加者数:76人 ・岩崎弥太郎源流の地フォーラム来場者数:約300人 | ・観光ガイド利用者数:844人(H27.4～12月) | |

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| 項目名及び事業概要、主な事業主体 | これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆> | インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと> |
|--|--|---|
| <p>24 東洋町における体験観光の推進</p> <p>《東洋町》</p> <p>サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入れ施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。</p> <p>【東洋町、地元マリンスポーツ関係事業者、観光振興協会】</p> | <p>○H25東洋町観光振興協会の観光振興補助事業を活用し地元ダイビングスクールが新たな体験観光プログラムを開発した。</p> <p>○H25東洋町観光ガイドブック「東洋町探訪」作成</p> <p>○H26体験ガイド認定事業により7団体と個人1名の12種類の体験観光プログラムを認定した。</p> <p>○H26こけらまつり開催(来場者2000人)</p> <p>◆地域資源を生かした体験観光プログラムの開発</p> <p>◆地元事業者(サーフショップ等)との協調</p> <p>◆受入れ施設の整備</p> | <p>・東部博イベントの開催(2回)</p> <p>・産振アドバイザー制度の活用(東洋町観光振興協会の課題整理と人材育成など:3回)</p> <p>・こうちカメラ女子旅in東洋町モニターツアーの実施(1回)</p> |
| <p>25 藤村製絲を活用した観光振興</p> <p>《奈半利町》</p> <p>藤村製絲を活かした観光振興をなはり浦の会とともにに行い交流人口の拡大を図る。</p> <p>【藤村製絲、なはり浦の会、奈半利町、なはり観光文化協会】</p> | <p>○高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、観光拠点施設となる藤村製絲記念館を建設(H26)</p> | <p>・藤村製絲記念館開館(4/29・東部博スタートと同日)</p> |
| <p>26 中芸地区における広域観光の推進</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>官民が協働して、地域内にある観光資源を磨き上げ魅力ある滞在型・体験型旅行商品づくりを行いながら、観光客の増加を図り、地域の経済の活性化を推進する。</p> <p>【中芸広域連合、中芸観光協議会、中芸商工会、観光関連事業者等】</p> | <p>○H24.4.1中芸観光協議会設立(H24.3.29設立総会)</p> <p>○協議会の運営(H26:通常総会1回、運営会議5回)</p> <p>○中芸観光ビジョンの策定(H24策定委員会:4回)</p> <p>○中芸観光スペシャルキャンペーンの開催(H24実行委員会:9回)</p> <p>○イベント等情報収集(62回)</p> <p>○ホームページの開設、イベント等での観光情報PR(1,110名)</p> <p>○旅行会社等との調整(高新観光、伊予鉄トラベル、朝日旅行、土佐電トラベル等)</p> <p>○観光プロモーション(8回)</p> <p>◆魅力ある旅行商品の造成</p> <p>◆ガイド等の受入体制の整備</p> | <p>・中芸食のめぐみ満祭フェアオープニングイベント開催(モネの庭)(5/10開催)への地域本部による業務支援(総括・支援員4名)</p> <p>・魚梁瀬森林鉄道アート&ライブ(5回)</p> <p>・中芸観光協議会運営会議の開催(1回)</p> <p>・高知県東部博中芸推進委員会の開催(4回)</p> <p>・GW期間における臨時観光案内</p> <p>・東部博における「中芸パビリオン」の運営(常設展、夏休みまるごと体験展、魚梁瀬森林鉄道ジオラマ展、天然写真家前田博史写真展、中芸ゆずづくし展の開催)</p> <p>・SW期間(9/19~23)における臨時観光案内実施及び地域本部による業務支援(総括・支援員4名)</p> <p>・県広報番組(おはようこうち)での東部博・中芸パビリオンのPR(3回)</p> |
| <p>27 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。</p> <p>【奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸観光協議会、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会】</p> | <p>○案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21~23)</p> <p>○観光用ビデオの作成(H22)</p> <p>○開通100周年事業の実施(H23~H24)</p> <p>○ガイドの育成27名(H21~H23)</p> <p>○旅行会社等によるツアーの催行</p> <p>○中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会の自主的な活動の充実(H25)</p> <p>○旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の発足(H26)</p> <p>◆100周年記念事業を契機とした更なる情報発信</p> <p>◆5カ町村共同での保存・管理・活用計画の策定</p> <p>◆東部博覧会の実施に際した観光素材としての磨き上げ</p> | <p>・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会総会終了後、総会出席者に対し森林鉄道セミナーを実施(1回)</p> <p>・林鉄ガイドを40回実施(1四半期:12回、2四半期:6回、3四半期:22回)</p> |
| <p>28 体験型観光と地域の加工品づくりの推進 ~大野台地は、えいところ!~</p> <p>《田野町》</p> <p>交流事業の推進による交流人口の拡大と併せて新たな加工品開発に取り組むことで、農畜産物の消費拡大や所得の向上、雇用機会の創出を図る。</p> <p>【大野倶楽部、田野町】</p> | <p>○体験イベントの受入・主催による実施や県外の学習塾の体験合宿受入(H22~23)などに取り組み、交流人口の拡大など一定の成果が見られる。</p> <p>○東部地域で初めてとなる民泊にも積極的に取り組んでおり、修学旅行生の受入れなど今後の展開に期待が持てる。</p> <p>◆事務局体制の確立、受入れ・実施体制の強化</p> <p>◆地域住民への活動理念の浸透</p> <p>◆他地域の資源と連携したメニューづくり</p> <p>◆活動を収入に繋げていく仕組みづくり</p> | <p>・地域イベントへの出店(6回)</p> |
| <p>29 世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大</p> <p>《北川村》</p> <p>県外での広告宣伝や、それに連動した営業活動によって、来園への新たな動機付けにつながる施設整備やイベントの実施をPRして集客力を高める。</p> <p>【北川村、榊きたがわジャルダン】</p> | <p>○1月末の入園者数(榊きたがわジャルダンの決算期は毎年2月から翌年1月まで)</p> <p>H22.2~H23.1 53,369人</p> <p>H23.2~H24.1 59,101人</p> <p>H24.2~H25.1 55,288人</p> <p>H25.2~H26.1 56,281人 対H24:101.8% 対H23:95.2%</p> <p>H26.2~H27.1 54,115人 対H25:96.2% 対H24:97.9%</p> <p>○来園促進のため、県内及び中四国への営業訪問・PR活動の実施</p> <p>◆開園1年間で20万を超えた入園者数が、年々減少しておりここ5年は5万人台で推移。</p> <p>◆開園15年を超え、来園動機の落ち着きが見られることから誘客対策の強化が必要。</p> <p>◆営業・情報発信の不足</p> | <p>・まるごと東部博中芸地区のパビリオンとなる。</p> <p>・まるごと東部博「中芸食の恵み満祭フェアオープニングイベント」の開催(5/10)</p> <p>・地域人づくり事業を活用した「モネの庭接客マナー向上事業」の実施(月1回)</p> |

| アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと> | アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと> | 指標・目標 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・11の体験プログラムを実施 ・こうちカメラ女子旅in東洋町モニターツアー(11/21～22)参加者14人 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・町並みガイド実績(H27.4～12月):257人 | | <p>【指標】 町並みガイド実績 H24:390人</p> <p>【目標(H27)】 800人/年</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中芸食のめぐみ満祭フェアオープニングイベント(約2,800名) ・GW期間の臨時観光案内所への来客数(1,058人) ・魚梁瀬森林鉄道アート&ライブ(5/23:約100名、6/20:約100名、8/8:約80名、9/26:約100名、10/17:約100名) ・SW期間の臨時観光案内所への来客数(750人) | <ul style="list-style-type: none"> ・中芸食のめぐみ満祭フェアオープニングイベント(5/10)は約2,800人の来場者があり、4/29からスタートした東部地域博覧会のGW期間中のスペシャルイベントとして誘客のための大きな役割を果たした。 ・中芸パビリオンでの常設展に加えて、夏休みまるごと体験展、魚梁瀬森林鉄道ジオラマ展等を開催し、7月以降の来客が伸びたことにより、地域での自主的な取組に対する意識醸成につながった。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・林鉄ガイド実績:40回実施(計730名)(1四半期:12回(225名)、2四半期6回(106名)、3四半期22回(399名)) | | <p>【指標】 ツアー客数 (H22:1,171人)</p> <p>【目標(H27)】 1,500人</p> |
| | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・東部博中芸食の恵み満祭フェアメニューの開始 ・東部博スタート(4/29)や中芸食のめぐみ満祭フェアオープニングイベント(5/10)により、GW(12日間)の入園者数が前年より約25%増加(H26:6,827人→H27:8,497人) ・夜間開園(9/12)の来園者数 925名 ・夜間開園～光のフェスタ～の来園者数 3,477名 | | <p>【指標】 入園者数 (H22:53,369人)</p> <p>【目標(H27)】 65,000人</p> |

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

| 項目名及び事業概要、主な事業主体 | これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆> | インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと> |
|---|--|---|
| <p>30 旧椎名小学校を活用した地域振興 《室戸市》</p> <p>旧椎名小学校を海をテーマにした観光施設(深海生物、ウミガメ等を展示するミニ水族館、標本などの模型の展示、魚さばき体験スペースの設置等)に改修し、併せて集落活動センターを設置することにより、住民主体の活動を促進し、地域の課題解決や交流人口の拡大を図る。</p> <p>【室戸市、NPO法人日本ウミガメ協議会、地域住民団体(椎名常会)、椎名大敷組合】</p> | <p>◆旧椎名小学校活用計画への住民参画の意識醸成 ◆施設の効果的な活用に向けた事業の進捗管理</p> | <p>・旧椎名小学校利活用検討委員会の開催(3回) ・旧椎名小学校利活用計画案の地元説明会の開催(9/10)</p> |
| <p>31 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり 《安芸市》</p> <p>安芸市東川地区の資源を活用した新商品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取組を通じて、持続可能な集落づくりを目指す。</p> <p>【東川地域おこし協議会】</p> | <p>○集落活動センター「かまん東川」の開設(H25.9月) ○地域おこし協力隊による地域資源を活用した商品開発(紅茶やはちみつ等)や東京等での商品販売(H26) ○東川若いもんグループによるモニターツアー等イベントの企画、運営(H26) ○東川ふれあい市の開催(H26)</p> <p>◆活動を収入につなげていく仕組みづくり ◆集落活動センターの体制強化 ◆地域資源を活用した商品開発と販路の拡大</p> | <p>・お茶摘み体験(1回) ・東川若いもん会議(13回) ・フェイスブックでの情報発信 ・東川地域おこし協議会総会(1回) ・ゆず収穫体験(1回) ・ふれあい市(1回)</p> |
| <p>32 安田中山地区の活性化プロジェクト 《安田町》</p> <p>地区住民が主体となり、安田ふるさと応援隊と協力して集落活動センターの運営を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。</p> <p>【安田町、中山を元気にする会、安田川漁協、自然薯生産組合、味工房じねん、中山合同女性部】</p> | <p>○高知大学・安田町連携事業協議会(H24) ○「集落活動センターなかやま」の開設(H25.4月) ○旧中山小中学校(集落活動センター)の耐震診断(H25) ○安田ふるさと応援隊(地域おこし協力隊)1名の採用(H25) ○集落調査2名の採用(H26) ○中山を元気にする会の月例化(H25~) ○なかやま山芋まつりの活性化(H25,来場者前年比約1.5~2倍) ○集落活動センター拠点施設の落成(H26.12月) ○ふるさと応援隊員の活動を通じた地域住民の参加意識の醸成 ◆集落活動センターの円滑な運営と外部人材の活用 ・地域おこし協力隊員による運営支援の継続 ◆集落活動センター部分以外の旧中山小中学校の活用計画の策定</p> | <p>・安田町ふるさと応援隊(地域おこし協力隊2名、集落支援員2名) ・高知大学との連携(えんむすび隊、看護学科実習、SUIJI(Six University Initiative Japan Indonesia)、魚梁瀬森林鉄道の暮らし・聞き取り調査) ・地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)による自然薯加工機器の導入(県費100千円)</p> |
| <p>33 北川村温泉を核とした中山間振興 《北川村》</p> <p>北川村温泉の建築に併せ、地域の集落活動の拠点を整備することにより、交流人口の拡大と地元農産物の直販などの集落活動を拡大することで中山間地域の振興を図る。</p> <p>【北川村、北川村中部地区集落活動協議会、北川村観光協会】</p> | <p>○S49、林業振興の拠点施設として北川村温泉を整備。 H19、北川村の施設運営を指定管理(株式会社)に移行。 ・H24年度来場者: 宿泊者数 5,463名 入浴者数 17,731名 ・H26年度来場者: 宿泊者数 4,978名 入浴者数 16,704名 ○H25.7月、和田・小島・平鍋地区の住民で組織する北川村中部地区集落活動協議会を設置 ・北川村温泉内で直販市を試行(H25.8月~、日曜開催) ・休耕田対策として、協議会員による耕作や花を植えて誘客事業に着手 ○温泉施設の基本設計及び実施設計(H26) ◆温泉施設の整備 ◆情報発信 ◆地域交流活動、集落活動の展開</p> | <p>・休耕田の菜の花開花(6,000㎡)によるイベントの開催。 ・休耕田で地区住民の協力により約20名でひまわり畑(5~6反種13kg)づくり。 ・温泉での直販市の開催による地元産品の販売。</p> |
| <p>34 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト 《馬路村》</p> <p>馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。</p> <p>【馬路村、魚梁瀬地区住民団体(自治会)】</p> | <p>○魚梁瀬ふるさと応援隊2名導入(H26.10月) ○魚梁瀬パスポート、雛祭りなど交流人口拡大に向けた活動の開始 ◆ふるさと応援隊の活動を地域住民主体の活性化策にいかにつなげていくか。 ◆まち・ひと・しごと創生総合戦略への地域住民の意向の反映</p> | <p>・ふるさと応援隊による魚梁瀬の地域活性化に関する聞き取り調査実施</p> |

| アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと> | アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと> | 指標・目標 |
|--|---|--|
| | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・お茶摘み体験参加者56名 ・東川思い出フィルム上映会 & 本町商店街ビアガーデン参加者約80名 ・ゆず収穫体験参加者37名 ・ふれあい市客数約200名 | | |
| | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花開花によるイベント来訪者のべ約350人。 ・モネの庭、地元建設会社、観光協会などを巻き込んだ協議会活動の広がり。 ・地元産品の販売が地元住民にとって多少の収入源になっている。(温泉改修によりH27.8月末で直販所活動は一旦休止) | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会設立の目的である「地域の繋がり」が作られつつある。 | <p>【指標】 来場者 H24 宿泊: 5,463人 入浴: 17,731人</p> <p>【目標(H27)】 H24年比10%増 宿泊: 6,000人 入浴: 19,500人</p> |
| | | |